

私の視点

私たちの唱者であること。それがアニマル・アドボケートであり、そのためには人と動物の関係のすべてのスペクトルを知ることが必要である。人と動物の関係という要から、扇の骨がいっぱい出ている。扇の骨が全部別々にあって、扇面全体が人と動物の関係学で、愛護や福祉もその全部の中の一本の骨なのだ。そういう認識をもっていないと、逆に動物に対する気持ちを失ってしまう。

アドボケートには提唱者とか代弁人の意味があるが適当な訳はない。まず動物のことを理解し、正しい動物関連情報の提

アニマル・アドボケート

風を吹かすことはできない」。私の漠然とした要望（全体は悪循環の連鎖の中にあって：木だけ見えて、自分が森の中のどこに立ってるかよく分からなくて：）を、山崎さんはきちっと理解し、見事な講演で扇を広げてみせてくれた。

あいにく風を起こすには当方の広報がたりず、当日は人の集まりが少なかつたが、回を重ねるごとに、自発的な参加者が増え、今年の「余剰動物の行く末」には年代、立場の異なる二十人ほどが集まった。「新聞を見て

医学科）ではこういうことは教えてくれないんです」

都会では質の高いセミナーが頻繁にあるが、案内を受けてもなかなか行けない。ならば呼べばいい。無料、自由参加のA活動はこうして始まった。私たちのした回り道を、新しく出てくる人々がいたずらにたどることなく、ネットに踊らされることなく、人と動物の健全化に向けて私たち一人ひとりがきっかけをつかむ場になれば幸いである。

：こういうのは鳥取にはないから」。「大学（獣

（鳥取市緑ヶ丘、仲子、鳥取共生動物市民連絡協議会主宰、54歳）